

(株) 中村  
(株) えこびと農園

代表取締役社長  
取締役

なかむら みよこ

中村光子子さん

佐賀県神崎市

取材日：29.10.18



エゴマの持つ効能で高齢化社会に向けた健康な体づくりを目指し、地元・佐賀県産品の販売と合わせた取組みを紹介します。

## ◆プロフィール

### 【取組みのきっかけ】

父親（株式会社 中村 会長 中村彰義氏）が韓国のファームステイで出会った農家の影響を受けてエゴマに興味を持ったことがきっかけで栽培を開始し、平成28年12月に「えこびと農園」を立上げ、（株）中村の食品事業部でエゴマの加工品を製造し、「えこびと」で販売を開始

### 【経営規模】

自社農園 エゴマ2.7ha、契約ほ場：1.8ha  
（佐賀県内10件、熊本県2件）

### 【主な受賞歴】

第2回佐賀さいこう企業表彰受賞



収穫前のエゴマ

## ◆認知症や成人病予防のためにエゴマの普及を目指した取組み

エゴマの加工を行っている「株式会社 中村」は、もともと木製品を中心とした住宅内装資材を取扱う会社です。伐採されたクスノキで防虫・アロマグッズなども製造・販売しています。3~4年前から、周辺の農家さんから農地を購入して欲しいという要望と消費者から国産のエゴマが欲しいという声为重なり、平成28年12月に「株式会社えこびと農園」を法人化して農地を取得し、本格的にエゴマの生産を開始しました。

えこびと農園で生産したエゴマは、農薬や肥料を使わずに栽培しており、全量（株）中村で買い取っています。これからの高齢化社会に向け、動脈硬化や認知症などに効果があると言われるα-リノレン酸を含むエゴマを取りやすくするため、オイルのほかふりかけやお茶などに加工しています。エゴマオイル絞りかすをエサにした鶏の卵「えごまたまご」を原料にしたマヨネーズも販売しており、食事に取り入れやすい工夫をしています。特に、若い人たちにもっとエゴマを知ってもらい、食生活に取入れることで健康維持に役立てて欲しい、という思いがあります。

# (株)えこびと農園

## ◆苦勞したこと

えこびと農園で農業を始めるために、まずトラクターや乾燥機などの機材の購入などの初期投資に、ものすごくお金がかかることに驚きました。しかも、代表である父親が65歳から始めたために、青年就農給付金（※当時）などの国の補助金が利用できませんでした。一方、認定農業者になろうと手続きを試みましたが、栽培面積の要件や立ち上げて直後の生産法人であり、実績が無いことなどから、まだ認定を受けていない状況です。何とか銀行から資金を借入れることができたものの、資金調達は大変でした。

エゴマの栽培は無肥料・無農薬でやっているの、虫との戦いです。次年度の栽培では、エゴマが虫に強くなるような肥料を工夫して取り入れてみたいと考えています。

従来は涼しい地方で栽培されるエゴマですが、温暖な九州では成長が良く、東北地方で栽培されているものより茎が太くなり、なたね用の収穫機で収穫したところ、ほ場に実が落ちてしまい、収量が減ってしまいました。今年の収穫は10月中旬から始めますが、本場韓国の収穫作業を見習い、全て手刈りで行って収量を確保します。

名称：株式会社 えこびと農園  
所在地：佐賀県神埼市千代田町迎島1282-3  
電話番号：（0952）20-0388  
定休日：毎週水曜日・えこびとカフェ・直売所  
オンラインショップ：<http://www.ecobito.jp/>  
Facebook：<https://www.facebook.com/ecobitofarm/>  
その他：県内外のエコロジー関連商品を扱うセレクトショップで販売中



佐賀県内のこだわりの加工品を販売

## ◆”佐賀県産”の商品を推しています

カフェを併設している直営店「えこびと」では、自社製品であるエゴマの加工食品、クスノキ関連商品を販売しています。また、地元の“良いモノ”をPRし、佐賀県産の食材を広めるため、佐賀県内で生産される野菜や加工食品の販売を行い、地元のPRを行っています。

佐賀県の知名度を上げ、佐賀県全体の活性化に繋がることができるよう取り組んでいます。



エゴマ関連の商品

## これからの女性農業者へのメッセージ

アイデアを思いついてもそのままにしている人が多いと思いますが、やろうと思えば形になってくるもので、まず始めて見るといいと思います。必ずどこかに、そのアイデアを活かした発想を待っている人たちがいるので、あきらめずに続けると、自然にネットワークができ、実現に近づいてくるものです。

「えごまたまご」で作ったシュークリームが1番人気です！



## 今後の目標

まずは、地元・佐賀県でエゴマの認知度をあげることです。多くの方が手軽にエゴマを食生活に取り入れることができるよう、もっと工夫を凝らして、エゴマ商品を増やしていきます。本場・韓国では反収200kgありますが、日本では東北地方で栽培されていますが、反収60～70kgくらいです。えこびと農園では、反収150kgを目指して取り組んでいきます。